

勉誠出版

中古文学会 学会員様限定

特価2割引販売

割引クーポンコード: 04a84a7c50
(期限: ~2020年7月31日)

●ご連絡先

Mail info@bensei.jp

FAX **03-5215-9025** / 電話 **03-5215-9021**

●ご注文について

- ・弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード: 04a84a7c50 (期限: ~2020年7月31日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください!

未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- ・ご注文の際には、公費・私費の区別をお知らせください。
- ・ご注文は、メール添付、FAXでも受け付けております。
- ・次の頁に注文書をお付けしています。メールやFAXの送り状の本文に直接ご注文内容をご記載いただくかたちでも結構です。
- ・注文書内*印をつけた書籍については、チラシをお付けしております。内容詳細はチラシをご覧ください。
- ・以下に、より詳細な「研究書 新刊・近刊のご案内」もございます。こちらからも注文書をダウンロードいただけます(pdf・エクセル)
https://bensei.jp/?main_page=wordpress&p=12845
- ・注文書に記載の無い書籍につきましても2割引にて承ります。

「研究書 新刊・近刊のご案内」と
「注文書」は、右のQRコードからも
ダウンロードしていただけます



最新の出版総合目録は
右のQRコードから
アクセスいただけます



勉誠出版 注文書

Email info@bensei.jp
FAX 03-5215-9025

ご送付先(氏名・住所・電話番号)

通信欄 ※お支払い方法(公費・私費)、必要書類はこちらにご記入ください

※割引クーポンコード:04a84a7c50(期限:~2020年7月31日)
こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください!
※弊社ホームページの「研究書 新刊・近刊のご案内」より、注文書(PDFかエクセル)をダウンロードしてご記入のうえ、メールかFAXにて、お送りください。
※メールやFAXの送り状の本文に直接ご注文内容をご記載いただくかたちでも結構です。

No.	書名	編著者	刊行年月	ISBN	本体価格	冊数
◆事典・総記						
1	文化情報学事典	村上征勝 監修/金明哲・小木曾智信・中國聡・矢野桂司・赤間亮・阪田真己子・宝珍輝尚・芳沢光雄・渡辺美智子・足立浩平 編	2019/12	20071	18,000	
◆歴史・文化財・美術史・思想史						
* 2	古文書の様式と国際比較	小島道裕・田中大喜・荒木和憲 編/国立歴史民俗博物館 監修	2020/2	22272	7,800	
* 3	日本の表装と修理	岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人 編	2020/3	20073	7,000	
4	歴博甲本洛中洛外図屏風の研究	小谷量子 著	2020/2	22257	10,000	
5	日本近世社会と町役人	望月良親 著	2020/2	22266	6,000	
6	近世豪商・豪農の(家)経営と書物受容—北奥地域の事例研究	鈴木淳世 著	2020/2	22265	10,000	
7	近世都市の常態と非常態—人為的自然環境と災害	渡辺浩一/マシュー・デーヴィス 編	2020/2	22267	7,000	
8	江戸日本橋商人の記録—〈にんべん〉伊勢屋高津伊兵衛家の古文書	澤登寛聡・筑後則 編	2020/3	22269	11,000	
9	甦る「豊後切支丹史料」—パチカン図書館所蔵マレガ氏収集文書より	松井洋子・佐藤孝之・松澤克行 編	2020/2	22261	12,000	
10	琉球船漂着者の「聞書」世界—『大島筆記』翻刻と研究	島村幸一 編	2020/3	22197	10,000	
11	日本建築の歴史的評価とその保存	山岸常人 著	2020/2	22268	17,000	
12	洪沢敬三とアチック・ミュージアム—知の共鳴が創り上げた人文学の理想郷	加藤幸治 著	2020/1	22263	3,500	
13	荒れ野の六十年—東アジア世界の歴史地政学	與那覇潤 著	2020/1	22264	3,200	
14	日本画の所在—東アジアの視点から	北澤憲昭・古田亮 編	2020/4	27055	6,500	
15	描かれたマカオ—オーダーウェント・コレクションにみる東西交流の歴史	貴志俊彦・朱益宜・黄淑薇 編	2020/4	22262	22,000	
◆日本語学・言語学						
16	日本書紀声点本の研究	鈴木豊 著	2020/3	28048	14,000	
17	龍谷大学図書館蔵 黒谷上人語燈録 元亨版 翻刻および総索引	佐々木勇 主編	2020/4	28050	18,000	
18	近世後期テニヲハ論の展開と活用研究	遠藤佳那子 著	2020/1	28047	8,000	
19	論究日本近代語 第1集	日本近代語研究会 編	2020/3	28521	15,000	
20	サハ語文法—統語的派生と言語類型論的特異性	江畑冬生 著	2020/4	28049	9,800	
21	国宝 漢書楊雄伝 第五十七	京都国立博物館 原本所蔵・編 / 石塚晴通・上杉智英・小助川貞次 解説	2019/12	28046	35,000	
22	続 岐点の軌跡 老いてなお岐点あり—老いてなお岐点あり	北原保雄 著	2020/4	28503	4,500	
◆古典文学・文学史						
* 23	医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界	陳捷 編	2020/2	20072	12,000	
24	水門一言葉と歴史 第二十九号	水門の会 編	2020/1	22443	3,500	
* 25	本朝文粹抄 六	後藤昭雄 著	2020/2	29224	3,200	
* 26	源氏物語と平安朝漢文学	長瀬由美 著	2019/2	29173	7,000	
* 27	源氏物語の近世—俗語訳・翻案・絵入本でよむ古典	レベッカ・クレメンツ/新美哲彦 編	2019/8	29186	12,000	
28	仙洞句題五十首・水無瀬殿恋十五首歌合 全注釈	石川一 編	2020/3	29195	10,000	
29	南方熊楠と日本文学	伊藤慎吾 著	2020/3	22270	7,000	
30	幕末明治の社会変容と詩歌	青山英正 著	2020/2	29196	10,000	
31	明治の教養—変容する〈和〉〈漢〉〈洋〉	鈴木健一 編	2020/1	29193	7,500	
32	漱石文体見本帳	北川扶生子 著	2020/1	29189	2,800	
33	ビジュアル資料でたどる 文豪たちの東京	日本近代文学館 編	2020/4	29163	2,800	
34	同性愛文学の系譜—日本近現代文学におけるLGBT以前/以後	伊藤氏貴 著	2020/2	29191	2,800	
35	平川祐弘決定版著作集 東の自生観と西の創造観	平川祐弘 著	2020/3	29428	14,000	
36	平川祐弘決定版著作集 開国の作法	平川祐弘 著	2020/4	29429	14,000	
37	アメリカ現代詩入門—エズラ・パウンドからボブ・ディランまで	原成吉 著	2020/2	29192	3,500	
38	100人の作家で知る ラテンアメリカ文学ガイドブック	寺尾隆吉 著	2020/3	29194	2,800	
◆図書館学・アーカイブ						
39	デジタルアーカイブ・ベーシック3 自然史・理工系研究データの活用	井上透 監修/中村覚 責任編集	2020/4	20283	2,500	
◆統計学						
40	この本を書いたのは誰だ?—統計で探る“文章の指紋”	村上征勝 著	2020/4	29198	1,800	
41	R・Pythonによる 統計データ科学	杉山高一・藤越康祝 監修	2020/2	24011	2,700	
◆アジア遊学						
* 42	240 六朝文化と日本—謝靈運という視座から	蔣義喬 編著	2019/12	22706	2,800	
43	241 源実朝—虚実を越えて	渡部泰明 編	2019/12	22707	2,800	
* 44	242 中国学術の東アジア伝播と古代日本	榎本淳一・吉永匡史・河内春人 編	2020/1	22708	2,800	
45	243 中央アジアの歴史と現在—草原の叢智	松原正毅 編	2020/3	22709	2,400	
46	244 前近代東アジアにおける〈術数文化〉	水口幹記 編	2020/3	22710	3,200	
47	245 アジアの死と鎮魂・追善	原田正俊 編	2020/3	22711	2,800	
48	246 和漢のコードと自然表象—十六、七世紀の日本を中心に	島尾新・宇野瑞木・亀田和子 編	2020/4	22712	2,800	
49	247 移動するメディアとプロバガンダ—日中戦争期から戦後にかけての大衆芸術	西村正男・星野幸代 編	2020/4	22713	2,800	

小島道裕・田中大喜・荒木和憲〔編〕 国立歴史民俗博物館〔監修〕

古文書の様式と国際比較

東アジア古文書学構築のために――

いまを生きるわれわれに
歴史の一場面を伝えてくれる史料、古文書。
そこに記された内容のみならず、
文字の配置や大きさ、料紙の選択、印の位置など、
「モノ」として残るその形もまた、
古文書の持つ様々な意味と機能を伝える貴重な情報源である。
古代から近世にいたる日本の古文書の様式と機能の変遷を
通史的・総合的に論じ、
また、文書体系を共有するアジア諸国の古文書と比較。
日本の古文書の特徴を浮き彫りにし、
東アジア古文書学の構築のための基盤を提供する画期的成果。

二〇一八年秋に国立歴史民俗博物館にて開催され、SNS等でも大きな話題となった企画展示「日本の中世文書——機能と形と国際比較」。その関連シンポジウムおよびフォーラムを一书にまとめた貴重な一冊。歴史ファン・古文書ファン待望の一冊。

掲載図版120点超!
カラー口絵では、
古文書の様式を
分かりやすく図解。

〔目次〕

口絵 図解でわかる文書様式

はじめに……………小島道裕

第1部 日本の文書様式とその変遷

1 古代の文書と中世への展開
古代日本における「文書」の誕生……………小倉慈司
〔詔勅〕における口頭伝達の役割……………仁藤敦史
中世日本における書状の広がり
——古代書状論「公文書化」論を中心にして……………佐藤雄基

2 中世文書の諸相

將軍の文書と武士団の文書……………田中大喜
寺院文書の特徴
——祭議文書の形成とその背景……………横内裕人

3 戦国大名の文書と近世への展望

戦国大名の文書と天下人の文書……………金子 拓
——北条氏の「虎の印判」は東アジア標準か……………小島道裕

第2部 東アジアの古文書と日本の古文書

1 韓国の古文書をめぐって
朝鮮王朝の国王文書……………川西裕也
日本と韓国の署名花押比較……………朴 竣鎬(稲田奈津子訳)
朝鮮時代における私人間の契約文書
——様式と特徴を中心に……………文 叔子(稲田奈津子訳)
東アジア古文書の中の画指……………三上喜孝

2 中国の古文書をめぐって

中国古文書学概論
——公文書の様式研究を例に……………黄 正建(江川式部訳)
明清時代の「信牌」……………阿 風黄 素英訳
日本古代における中国文書様式の受容と変容……………丸山裕美子

3 東アジアの文書と外交の文書

中世日本の往復外交文書
——十五、十六世紀の現存例を中心として……………荒木和憲
安南日越外交文書の様式と伝来……………藤田励夫
イルハン朝(モンゴル支配期イラン)の公文書……………四日市康博

総括 文書実践としての中世文書史……………高橋一樹
あとがき……………小島道裕
執筆者・翻訳者一覧

本体 **7,800**円(+税)
A5判上製カバー装
カラー口絵16頁+本文416頁
ISBN 978-4-585-22272-9 C3020
2020年3月刊行

<p>書名</p> <h2>古文書の様式と国際比較</h2> <p>小島道裕・田中大喜・荒木和憲〔編〕 国立歴史民俗博物館〔監修〕</p>	<p>部数</p> <p>本体7,800円(+税) A5判上製カバー装 カラー口絵16頁+本文416頁 ISBN978-4-585-22272-9 C3020 2020年3月刊行</p> <p>部</p>
<p>ご送付先ご住所(通信欄)</p>	

岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人

編

日本の表装と修理

装い、繕い、伝える――

絵画や書、古文書など、紙や絹を用いた文化財は、表装によって、より美しく、より長くその存在を守られ続ける。

これらの歴史的遺産を修理・保存し、伝えていくことは、込められた人々の思い・願いをも共有していく営みである。

表装や修理は、どのような価値観や思想のもとに行われてきたものなのか。

文化財の修理・保存の第一線にあり、その困難な作業の中で、

技術者たちはどのような試行錯誤を重ねてきたのか。残し伝えられてきた「モノ」との真摯な対話の中から、

表装と修理にまつわる文化史を描き出し、今日の我々にとっての

文化財保護の意義と意味を照射する。

「編者プロフィール」

岩崎奈緒子（いわさき・なおこ）
京都大学総合博物館教授。専門は日本近世史。

中野慎之（なかの・のりゆき）
文化庁文化財第一課文部科学技官（絵画部門）。専門は美術史。

森道彦（もり・みちひこ）
京都国立博物館研究員（中世絵画）。専門は中近世絵画。

横内裕人（よこうち・ひろと）
京都府立大学教授。専門は日本中世史。

「おへこ」

口絵
はじめに

参考文化財の構造と名称

第一部 現代の装演・文化財修理

装演師の声を聞く

――技術者から見た装演文化財修理の進化◆岩崎奈緒子
表具師から装演師へ◆岡興造
古文書修理の歴史と理念◆湯山賢一

第二部 表装の文化史

日本中世の仏画の表装◆谷口耕生

「東山表具」の成立をめぐる小考◆板倉聖哲
江戸宗玩による表具の記録と制作◆門脇むつみ

表装が伝えるもの――後水尾院縁の掛軸を事例として◆高田智仁
近代日本における中国書画蒐集と表装◆竹浪遠
近代日本画の材料と表装◆中野慎之

第三部 修理の文化史

平安時代の仏画制作とその修理◆増記隆介

前近代における書跡・古文書修理の諸相
――現状維持の理念をめぐる◆横内裕人

護持院隆光の寺社修理――元禄期の奈良を中心に◆古川攝一
近世における障壁画の保存と継承◆森道彦
近世ヨーロッパ美術と修復

――芸術作品の受容史の視点から◆平川佳世
あとがき
執筆者一覧



持人物肖像
絹本着色江戸時代（十九世紀）
（京都府蔵（京都文化博物館管理））

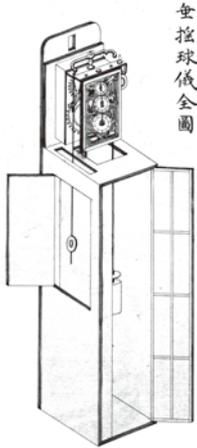
本体 7,000円(+税)

A5判上製・カラー口絵8頁+424頁
ISBN 978-4-585-20073-4 C1000
2020年3月刊行

書名	部数
日本の表装と修理	
岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人 [編]	
本体 7,000円(+税)	
A5判上製・カラー口絵8頁+424頁	
ISBN 978-4-585-20073-4 C1000	
2020年3月刊行	
ご送付先ご住所（通信欄）	

医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界

陳捷 [編]



全控球儀全圖



全體脈管圖

知の沃野をひらく

東アジアの知の遺産、古典籍。

なかでも**医学・本草学・農学・科学**に関する書物は、
人びとの社会・生活に密着するものとして
広く流通・展開し、大きな一群をなしている。

これまで総合的に論じられることのなかった
東アジアにおける**情報伝達と文化交流の世界を、**
地域・文理の枠を越えて考究する画期的論集。

編者略歴

陳捷(ちん・しょう)

1963年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科教授。

専門は中国古典文献学・書物交流史。

主著に『明治前期日中学術交流の研究—清国駐日公使館の文化活動』(汲古書院、2003年)、『人物往来と書籍流転』(中華書局、2012年)、『日韓の書誌学と古典籍』(共編、アジア遊学184、勉誠出版、2015年)などがある。

目次

まえがき

第一部 医学

- 日中韓越の医書流通と医学体系の形成●真柳 誠
- 『福田方』『悲田方』の構成と復元の可能性●浦山きか
- 日本における中国舌診書『敖氏傷寒金鏡録』の受容●梁嶸(黄昱・訳)
- 東アジア伝統医学の真髄
 - 朝鮮許浚の『東医宝鑑』●朴現圭(黄昱・訳)
- 国立公文書館所蔵の朝鮮通信使の医学筆談●梁永宣・李敏(小野泰教・訳)
- 崔漢綺が読んだ西洋医学書
 - Hobson(合信)の医書と崔漢綺の『身機踐験』●金哲央
- 清末の漢文西洋薬学書におけるアヘンの記述について●小野泰教

第二部 科学

- 『新製靈台儀象志』の受容●吉田 忠
- テキストの鏡影
 - 抜粋本と清初の暦算学●祝平一(高津 孝・訳)
- 18世紀朝鮮の実学者洪大容の『劉鮑問答』
 - 西洋科学知識受容の一断面●任正嫻
- 葛飾北斎『唐土名所之絵』と中国地図の受容●大澤顯浩

第三部 博物

- 経学註釈と博物学の間
 - 江戸時代の『詩経』名物学について●陳捷
- 近世中国知識人の博物学の再構築
 - 方以智『通雅』と『物理小識』を中心に●廖肇亨(千賀由佳・訳)
- 交錯する視線—南西諸島の博物学●高津 孝
- 青蒿と黄花蒿の名物学的研究
 - ラテン名比定の問題を中心に●久保輝幸

第四部 人と書物

- 平賀源内伝の再検討
 - 『平賀実記』を中心に●福田安典
- 洋学者・柴田収蔵と江戸の本屋●平野 恵
- 近世後期における地方知識層の書物交流
 - 伊藤忠岱の書写活動を中心として●清水信子
- 医籍専売書肆英蘭堂島村利助について●鈴木俊幸

あとがき

<p>書 名</p> <p>医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界</p> <p>陳捷 [編]</p> <p>ご送付先ご住所 (通信欄)</p>	<p>部 数</p> <p>本体12,000円(+税)</p> <p>A5判上製カバー装・456頁 2020年2月刊行 ISBN978-4-585-20072-7 C3000</p> <p>部</p>
---	--

ほんちようもんずいししょう

本朝文粹抄 六

後藤昭雄 [著]

日本漢文の粹を集め、

平安期の時代思潮や美意識を知る上でも貴重な文献「本朝文粹」。

その漢文の世界の深遠へと誘う格好の入門書。

第六巻では特殊な漢詩形式である雑詩のうち紀長谷雄および源順による二種、および、大学寮における試験の問題と解答である策問・対策、講書竟宴等の平安期の学問世界にかかわる作品など、全十一篇を収載。

【目次】

- 第一章 貧女吟(紀 長谷雄)——不幸な女の物語
- 第二章 夏日閑居、庭前の三物を詠ず(源 順)——越調詩
- 第三章 《策問》循良を詳らかにす(菅原輔正)——学問の文章(一)
- 第四章 《対策》循良を詳らかにす(大江挙周)——学問の文章(二)
- 第五章 第八皇子の始めて御注孝経を読むを聴く詩の序(菅原文時)——学問の文章(三)
- 第六章 後漢書竟宴の詩の序(紀 長谷雄)——学問の文章(四)
- 第七章 文選竟宴の詩の序(菅原文時)——学問の文章(五)
- 第八章 冷泉院の池亭に「花光水上に浮かぶ」を賦す詩の序(菅原文時)——学問の近くにある文章
- 第九章 仏性院に秋を惜しむ詩の序(源 順)——仏性院の詩宴
- 第十章 天台山円明房に月前に閑談すといふ詩の序(大江以言)——比叡山の詩会
- 第十一章 亀山の神を祭る文(源 兼明)——山の神に祈る

作者略伝／本朝文粹作品表／あとがき／索引

後藤昭雄 (ごとう・あきお)

一九四三年熊本市生まれ。一九七〇年、九州大学大学院修了。成城大学教授(二〇一三年まで)。主要著書に、『平安朝漢文学論考』(桜楓社、一九八一年。補訂版、勉誠出版、二〇〇五年)、『本朝文粹』(共著、新日本古典文学大系、岩波書店、一九九二年)、『平安朝漢文学史論考』(吉川弘文館、一九九三年)、『平安朝文人志』(吉川弘文館、一九九三年)、『日本詩紀拾遺』(吉川弘文館、二〇〇〇年)、『平安朝漢文学史論考』(勉誠出版、二〇一二年)、『本朝漢詩文資料論』(勉誠出版、二〇一二年)、『平安朝漢詩文の文体と語彙』(勉誠出版、二〇一七年)など。

書名		部数	
本朝文粹抄 六 後藤昭雄 [著]		本体 3,200円(+税) 四六判上製カバー装・312頁 2019年12月刊行 ISBN978-4-585-29224-1 C0095	
		第一巻… 本朝文粹抄 一 978-4-585-05367-5 C0095 2006年12月 本体 2,800円	第二巻… 本朝文粹抄 二 978-4-585-05407-8 C0095 2009年2月 本体 2,800円
第三巻… 本朝文粹抄 三 978-4-585-29221-0 C0095 2014年7月 本体 2,800円	第四巻… 本朝文粹抄 四 978-4-585-29222-7 C0095 2015年10月 本体 2,800円	第五巻… 本朝文粹抄 五 978-4-585-29223-4 C0095 2018年8月 本体 2,800円	
ご送付先ご住所 (通信欄)			

第21回
**紫式部学術賞
受賞!!**

長瀬由美〔著〕
**源氏物語と
平安朝漢文学**

交響する和と漢

平安時代の文人貴族にとつて、漢の思想・文化は、ある種の規範かつ憧憬の対象としてあった。なかでも白居易の詩文は、日本に舶載されて以来、広く愛され、日本の漢文世界に深く根をおろすとともに、『源氏物語』などの物語文学を育む豊かな土壌となった。

仮名文学が興隆して国風文化が開花し、また一方で、漢文学的な文化潮流が再興し、頂点に達した一条朝の時代——その時代に花開いた和漢の作品を丁寧に見込み、そこにあらわれる表現を丹念に分析することで、和の内なる漢のあり方、和漢の交響を文学史上に位置付ける。

〔著者プロフィール〕
長瀬由美（ながせ・ゆみ） 一九七五年生まれ。都留文科大学文学部国文学科教授。専門は平安朝文学。主な論文に『源氏物語と中唐白居易詩について』(二〇一四年パリシノンボジウム 源氏物語とポエジー)「青簡舎」(二〇一五年)、『源氏物語』准拠の手法と唐代伝奇・中唐の文学観(『中古文学』第95号、二〇一五年六月)、『源氏物語』と「長恨歌」——正編から続編へ(『源氏物語』煌めくことばの世界2)翰林書房、二〇一八年などがある。

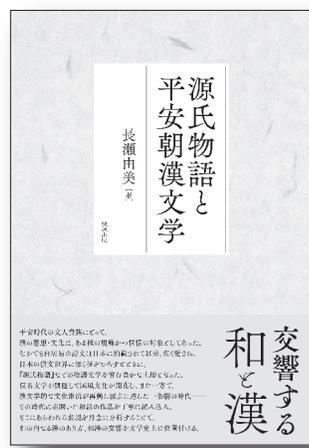
目次

I 序
I 白居易の文学と平安中期漢詩文
第一章 一条朝前後の漢詩文における『白氏文集』諷諭詩の受容
第二章 菅原文時「封事三箇条」について
第三章 一条朝文人の官職・位階と文学
——大江匡衡・藤原行成・藤原為時をめぐって
第四章 一条朝の文人貴族と惟宗允亮
——源為憲詩を起点として
第五章 平安時代の「長恨歌」受容
——金澤文庫本『白氏文集』の訓から

II 『源氏物語』と漢詩文世界
第一章 『源氏物語』准拠の手法と唐代伝奇・中唐の文学観
第二章 『源氏物語』と中国文学史との交錯
——不可知なるものへの語りの方法
第三章 『源氏物語』と史書の接点——童謡の方法

III 白居易の文学と『源氏物語』
第一章 中唐白居易の文学と『源氏物語』
——諷諭詩と感傷詩の受容について
第二章 『源氏物語』と「長恨歌」——正編から続編へ
第三章 朝顔巻の紫の上——月と人と、白居易詩のこころへ
第四章 荒廃した邸宅と狐
——『源氏物語』蓬生巻と白居易「凶宅」詩
付 章 『紫式部日記』の思考の姿
——白居易詩「身」と「心」詠との関連において

あとがき／初出一覧／索引



本体七、〇〇〇円(十税)
A5判上製・三三六頁
二〇一九年二月刊行
ISBN978-4-585-29173-2 C3095

書名	部数
源氏物語と平安朝漢文学 長瀬由美【著】	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

本体7,000円(+税)
A5判上製・336頁
2019年2月刊行
ISBN978-4-585-29173-2 C3095

源氏物語の近世

俗語訳・翻案・絵入本でよむ古典

レベッカ・クレメンツ／新美哲彦【編】

古典受容のダイナミズム

写本・版本の流通量が爆発的に増えたことで、地方へからの情報の伝播、さまざまな階層への知の解放が行われた近世。それまでは貴族や大名、連歌師周辺で読み継がれていた『源氏物語』もまた、他の和歌集や物語類とともに、庶民に受け入れられていった。

『源氏物語』の俗語訳として最初に公刊された都の錦『風流源氏物語』、また、その続編として編まれた、梅翁(奥村政信)『俗解源氏物語』『若草源氏物語』『雛鶴源氏物語』『紅白源氏物語』の全篇を翻刻・注解、挿絵も全て収載。国内外の二級の研究者による優れた論考も併せて収載し、俗語訳・翻案・絵入本など、さまざまな形にうつしかえられ、広く古典が受容されていくダイナミズムを考察するための基盤を提供する。



もくじ

序
凡例

都の錦『風流源氏物語』●校訂・注：新美哲彦 ●翻刻：柿崎理恵子

解説●レベッカ・クレメンツ

梅翁『若草源氏物語』●校訂・注：新美哲彦 ●翻刻：大塚誠也

梅翁『雛鶴源氏物語』●校訂・注：新美哲彦 ●翻刻：平田彩奈恵

梅翁『紅白源氏物語』●校訂・注：新美哲彦 ●翻刻：大塚誠也

梅翁『俗解源氏物語』●校訂・注：新美哲彦 ●翻刻：伊永好見

論考

江戸時代における「俗語訳」の意義●レベッカ・クレメンツ
女性にふさわしくない本？

——十七世紀後半の日本における『源氏物語』と『伊勢物語』
●ピーター・コーニツキ(翻訳：常田慎子)

テキストの代替●マイケル・エメリック(翻訳：幾浦裕之)
梅翁／奥村政信『源氏物語』の挿絵とテキスト●新美哲彦

あとがき

【著者プロフィール】

Rebekah CLEMENTS (レベッカ・クレメンツ) Research Professor at Institutio Catalana de Recerca i Estudis Avançats (ICREA) and Universitat Autònoma de Barcelona. 研究教授(カタロニア高度研究施設兼バルセロナ自治大学)。専門は東アジアの近世史。主な著書『A Cultural History of Translation in Early Modern Japan (Cambridge: Cambridge University Press, 2015)』。論文に「*つづ*」の注釈書『江戸時代における『源氏物語』の初期俗語訳の意義(陣野英則・緑川真知子編『平安文学の古注釈と受容 第三集』武蔵野書院、二〇一一年)』、『Speaking in Tongues? Daimyo, Zen Monks, and Spoken Chinese in Japan, 1661-1711.』(Journal of Asian Studies 76.3, 2017) などがある。

新美哲彦 (にいみ・あきひこ) 早稲田大学教授。専門は日本中古文。著書に『源氏物語の受容と生成』(武蔵野書院、二〇〇八年)、論文に「定家本『源氏物語』研究の現在／今後(『新時代への源氏学』七) 複製化する源氏物語」(竹林舎、二〇一五年)、『池田本『源氏物語』巻末付載『奥入』について』(天理図書館報「ブリア」一四四号、二〇一五年) などがある。

本体 11,000円(+税)

A5判並製・七五二頁
二〇一九年七月刊行
ISBN978-4-585-29186-2 C3095

書名	部数
源氏物語の近世 俗語訳・翻案・絵入本でよむ古典 レベッカ・クレメンツ／新美哲彦【編】	本体 12,000円(+税) A5判並製・752頁 2019年7月刊行 ISBN978-4-585-29186-2 C3095
ご送付先ご住所(通信欄)	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

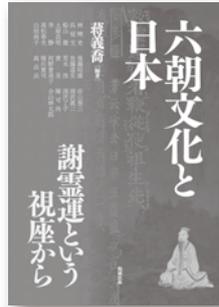
FAX●03-5215-9025

六朝文化と日本

謝靈運しゃれい うんという視座から「アジア遊学240」

蔣義喬 [編著]

儒・道・仏に通じ博学多才の詩人・謝靈運



〔目次〕

序言：蔣義喬

I ● 研究方法・文献

謝靈運をどう読むか——中国中世文学研究に対する一つの批判的考察：林暁光
謝靈運作品の編年と注釈について：呉冠文(訳・黄昱)

II ● 思想・宗教——背景としての六朝文化

「コラム」謝靈運と南朝仏教：船山徹
洞天思想と謝靈運：土屋昌明

III ● 自然・山水・隠逸——古代日本の受容

日本の律令官人たちは自然を発見したか：高松寿夫
古代日本の吏隠と謝靈運：山田尚子

IV ● 場・美意識との関わり

平安朝詩文における謝靈運の受容：後藤昭雄
平安時代の詩宴に果たした謝靈運の役割：佐藤道生

V ● 説話・注釈

慧遠・謝靈運の位置付け——源隆国「安養集」の戦略をめぐって：荒木浩
「コラム」日本における謝靈運「述祖徳詩」の受容についての覚え書き：黄昱

VI ● 禅林における展開

「蒙求」『靈運曲笠』をめぐって
——日本中近世の抄物、注釈を通してみる謝靈運故事の展開とその意義：河野貴美子

VII ● 禅林における展開

日本中世禅林における謝靈運受容：堀川貴司
山居詩の源を辿る——貫休と絶海中津の謝靈運受容を中心に：高兵兵
五山の中の「登池上楼」詩——「春草」か、「芳草」か：岩山泰三

VIII ● 近世・近代における展開

俳諧における「謝靈運」：深沢眞二・深沢了子
江戸前期文壇の謝靈運受容——林羅山と石川丈山を中心に：陳可冉

IX ● 近世・近代における展開

「コラム」謝靈運「東陽溪中贈答」と近世・近代日本の漢詩人：合山林太郎

〔編著者紹介〕

蔣義喬 (しょうぎぎょう)

北京師範大学外文学院准教授、早稲田大学日本古典籍研究所招聘研究員。専門は平安朝漢詩。

主な論文に「詠物詩から句題詩へ——句題詩詠法の生成をめぐって(和漢比較文学)三五号、二〇〇五年)、「詠物と言志——『懐風藻』から勅撰三集に至る(『日本における「文」と「ブンガク」(Bungaku)』)」「アジア遊学」一六二、勉誠出版、二〇一三年)、「菅原道真的詠物詩與杜甫詩歌的関連(『日語学習與研究』二〇一八年第二号)などがある。

日本文学・中日比較文学研究として取り上げ、思想的な背景となった六朝期の仏教や道教にも目を向けつつ、日本文学における受容の軌跡を追い、六朝文化受容のあり方を体系的に検討した一冊。

謝靈運とは……

東晋・南朝宋で活躍した詩人・文学者。

山水の詩が有名で「山水詩」の祖とされる。

『文選』に多くの詩作が収録され、

『金剛般若経注』を著すほど仏教にも通じた。

しかし、傲慢な性格が災いし、非業の最期を遂げる。

彼の作品や生涯は日本にも伝わり、

知識人・文人である菅原道真や吉田兼好などに

多大な影響を与えた。

六朝とは……

中国史で建康(建業)に都をおいた

三国・呉、東晋、南朝の宋・齊・梁・陳の総称。

書名	部数
六朝文化と日本 謝靈運という視座から 蔣義喬 [編著]	部
本体 2,800円(+税) A5判並製カバー装・224頁 2019年12月刊行 ISBN978-4-585-22706-9 C1390	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

中国學術の東アジア伝播と 古代日本

〔アジア遊学242〕

榎本淳一・吉永匡史・河内春人 [編]

「東アジア文化圏」の実態解明のために――

學術（学問・芸術・技術）は、文化のみならず、

その時代の社会、支配のあり方を規定する力を持つ。

その動向・内実を知ることが、それぞれの時代・地域の

歴史の本質に迫るための重要な視点である。

なぜ、東アジア地域のみが長らく中国文化を

共有し続けたのか、中国文化を共有することに

どのような歴史的意義があったのか――

中国大陆に淵源をもつ學術が

周辺諸地域に広がり、根付いていった諸相をたどり、

東アジア文化圏の形成・展開の実態を明らかにする。

〔編者紹介〕

榎本淳一（えのもと・じゅんいち）

大正大学文学部教授。

主著に『日唐賤人制度の比較研究』（同成社、二〇一九年）など。

吉永匡史（よしなが・まさふみ）

金沢大学人間社会研究域准教授。

主著に『律令国家の軍事構造』（同成社、二〇一六年）など。

河内春人（こうち・はるひと）

関東学院大学経済学部准教授。

主著に『倭の五王 王位継承と五世紀の東アジア』（中央公論社、二〇一八年）など。

〔目次〕

序言：榎本淳一

I ● 中国における學術の形成と展開

佚名『漢官』の史料性格

――漢代官制関係史料に関する一考察：楠身智志

前四史からうかがえる正統観念としての儒教と「皇帝支配」

――所謂外戚恩沢と外戚政治についての学術的背景と
その東アジア世界への影響：塚本剛

王儉の學術：洲脇武志

魏収『魏書』の時代認識：梶山智史

『帝王略論』と唐初の政治状況：会田大輔

唐の礼官と礼学：江川武部

劉知幾『史通』における五胡十六国関連史料批評

――魏収『魏書』と崔鴻『十六国春秋』を中心に：河内 桂

II ● 中国學術の東アジアへの伝播

六世紀新羅における識字の広がり：橋本 繁

古代東アジア世界における貨幣論の伝播：柿沼陽平

九条家旧藏鈔本『後漢書』断簡と原本の日本将来について

――李賢『後漢書注』の禁忌と解禁から見る：小林 岳

古代東アジアにおける兵書の伝播

――日本への舶来を中心として：吉永匡史

陸善経の著作とその日本伝来：榎本淳一

III ● 日本における中国學術の受容と展開

『日本書紀』は『三國志』を見たか：河内春人

日本古代における女性の漢籍習得：野田有紀子

大学寮・紀伝道の学問とその故実について

――東坊城和長『桂葉記』桂林遺芳抄を巡って：濱田寛

平安期における中国古典籍の摂取と利用

――空海撰『秘藏宝鑑』および藤原敦光撰『秘藏宝鑑鈔』を例に
：河野貴美子

あとがき：吉永匡史・河内春人

本体 2,800 円(+税)
A5判並製カバー装・240頁
ISBN978-4-585-22708-3 C1322
2020年1月刊行

書名	部数
中国學術の東アジア伝播と古代日本 【アジア遊学No.242】 榎本淳一・吉永匡史・河内春人 [編]	部
本体 2,800 円(+税) A5判並製カバー装・240頁 2020年1月刊行 ISBN978-4-585-22708-3 C1322	部
ご送付先ご住所（通信欄）	